



なでしこ



令和4年(2022年)10月27日

No.19


伝統の「若狭自然教室」～体験活動が子どもを変える～

校長 中村 真理子

10/20(木)～22(土)の2泊3日、6年生が楽しみにしていた「若狭自然教室」も、子どもたちの心に素晴らしい思い出を刻み、無事終わることができました。6年生の子どもたち一人ひとりが、2泊3日の全日程を、自分たちの力でやり遂げたという自信に満ちた顔に、頼もしさを感じました。

自然の中での、集団活動の運営や役割を果たす活動を通して、自分なりに考えを深め、集団の一員としての役割貢献、リーダーシップの発揮、目的を持って取り組むことなど、多くの価値ある体験ができた3日間となりました。6年生保護者の皆様のご支援、ありがとうございました。


『6年若狭自然教室(2泊3日)』



【カッター活動】

【仲間とのつながりを学ぶ】


- ・協力することの大切さや心地よさを実感する
- ・協調性やコミュニケーション力を育てる



【野外炊飯】

【若狭の自然(海・森)そのものを学ぶ】

- ・自然に親しむ心情や畏敬の念を育てる
- ・自然を大切に、環境保全の態度を養う
- ・自然の中で活動する技術を身につける



【スノーケリング体験】 【海釣り体験】

自然

仲間

草津小 6年

自分

集団


《国立若狭湾 青少年自然の家》

【集団や社会との関わりを学ぶ】

- ・集団で生活したり、活動したりする際は、ルールやマナーを守ること、自分の役割や責任を果たすことが大切であることを学ぶ

【自分を高める】

- ・達成感を味わい、自信をつけ、自己有用感を高める
- ・自分を見つめ、自己理解を深める
- ・2泊3日の間、身辺整理等、自分のことは自分で行うことで、将来に向けての自立へ一歩を踏み出す



【キャンドルサービス】

最近急速に増えているものに「バーチャルリアル」があります。3D映像などの仮想現実や拡張現実の世界です。学習には、これらを上手に使うことは有効ですが、「バーチャルリアル」が生きるためには、子どもたちの人生において直接体験が基盤(土台)としてなければならないのではないかと考えています。

本校では、発達の段階に応じて各学年で、多くの直接体験を伴う教育課程を編成しています。最高学年の6年生になった時に、「若狭自然教室」での集団宿泊体験活動が楽しめるように、子どもたちに様々な体験活動を積み上げていきたいと考えています。

1992年(平成4年)から今年度まで30年余り、本校は「若狭自然教室」を継続して実施してきました。草津小の伝統ある学校行事の一つとなっています。

6年生になれば、「自分たちも自然教室に行ってがんばってみたい。」とあこがれている行事でもあります。毎年、現地での活動内容を現行の「学習指導要領における集団宿泊活動の意義や役割」と照らし合わせ、より深化した活動となるように、今後も吟味して計画をまいります。これからも保護者・地域の皆様のご支援をよろしく願います。





『子どもの心に 寄り添って』



「自分を見つめ、より力強く生きる」

6年生の「若狭自然教室」閉校式で、次のようなことを子どもたちに語りかけました。

【校長の話】

「他の小学校の多くが、ふわふわの布団が敷かれた観光ホテルに修学旅行に行く中で、どうして草津小学校は、きまりやルールが多い「若狭湾青少年自然の家」に来ているのだろう。普段の生活と比べると、我慢することや守らないといけないことが多かったはず。しかも、他校は1泊日程がほとんどなのに、2泊3日という長期間。テレビやゲーム・スマホもない。いつもなら家族がしてくれることも自分でしなければならない。

君たちがこれから、中学生・高校生、社会人として成長する中で、校長先生のように大人になっても、我慢したり、きまりを守らなければならなかったりすることは、いっぱい起きる。どんな仕事についても、人と関わりながらやり遂げていかなければ生きていけない。今回は、わずか3日間だったけれども、君たちの日常にはない、きまりやルールの中でがんばってみることを経験した。これからの人生に今回の体験を活かしてほしい。」と伝えました。



【「若狭自然教室をふりかえって」 ※6年生の作文の一部を抜粋して紹介します。】

自己有用感・自己効力感の高まり

- 野外炊飯の時に、「何をすればいいの?」ではなく、自分たちで行動ができました。まな板を運んだり机をふいたりしました。私のめあてが「自分から行動する」だったので達成できたと思います。
- 2泊3日の中でルールやきまりがありました。そんな中で、10分前行動で時間を守ったり、使った物をきれいに片付けたりするなど、いろんなルールを守って安全に活動しました。
- 自分の宿泊室だけでなく、他の友達の宿泊室まで、そうじをがんばりました。
- 野外炊飯の時は、役割を決めて一人ひとりが活躍できて楽しかったし、いつも給食を作ってくれている人や、お母さんなどがどれだけ大変かを知ることができて、とてもよかったです。



【バイキング方式の食事】



【トビーの森探検隊】



【砂浜で全員集合】

協力し合って実践することの大切さ

- みんな、自分の役割を意識して過ごしていたことが「すごい。」と思いました。環境が、学校とは全然違うのに、声をかけあい、気にしながら生活できていたことが、行く前より成長できたところだと思います。
- 何より友だちと一緒にご飯を作って食べるということが、初めてだったので、とてもうれしかったです。

将来に向け、「自分らしい生き方の実現と広がり」

- 「聞く姿勢」をがんばりました。始まりのつどいから、ずっと意識していて、3日目の終わりのつどいまで意識して、できていたのがよかったです。
- 「常に時間は見ておく」ということを意識しました。次は、何時何分に何があつて、その持ち物を用意しました。定期的に時計とホワイトボードを確認するというのは、ちゃんとできていたと思います。
- 問題になっている自然破壊、それが進んでいくと、若狭の美しい自然の景色が見られなくなってしまうので、自然と人間が共存していく社会をつくっていくのがよいと思いました。
- 森をハイキングして最後に少しずつ見えてくる海は、どこまでも広がっていて、ずっと色々な世界と、つながっていて世界は広いなと思いました。
- 若狭で本当の自然と出会い、考え方が変わりました。私は、私たちを支えている山・川・海・草木・雨・風・動物、その全てに感謝し、守っていきたい。



【毎夜の班長会議】

【草津小 HP に、子どもたちの活動等を毎日更新中。「配付物」等も順次掲載しています。ぜひアクセスを!】